

子どもの言葉を生かして授業をする

「謙虚・広い心」をいかに授業するか



加藤 宣行

1. 教材について

『学級新聞作り』(光文書院5年)は「謙虚・広い心」の資料である。

学級新聞を作る際、黒羽さんが事前の約束と違う記事作りを始める。清水さんは事前に決めたとおりにすることを主張する。黒羽さんの考えを認めるか、決めたとおりにするか、責任者の「わたし」は判断に困ってしまう。

2. 展開

●一般的な問題を考える

人と人がうまくやっていくために、必要なことは何でしょう。

①お互いのことを認め合う

「ごめん」「こっちこそ」

②賄賂を使う

「これでどうにか……」

③笑顔で勝負

「いやあ、どうも(笑)」

④相手の意見を分かり合う

「なるほど、そういうことね」

⑤ゆづる

「どうぞどうぞ」

⑥二人の考えを合わせる

「合体！」

●資料を読んで、具体的な問題として考える

「わたしたち」と「黒羽さん」、正しいのはどちらでしょうか。

・それは「わたしたち」でしょう。

・だって、みんなで話し合ってそうしようと決めたことなんだから。

・「黒羽さん」は途中まで、"それでいい、賛成"と思っていたけれど、もっと面白い新聞を作り

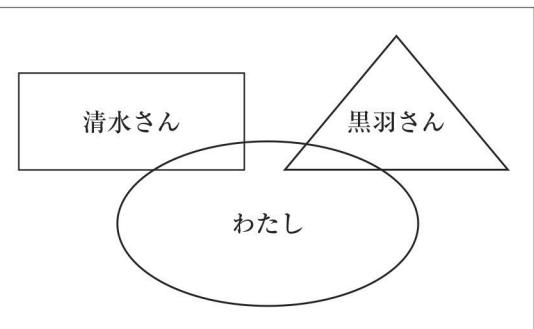
たいと思っていたら、別の案を思いついた。

みんなが考えた方法でうまくいくでしょうか。

- ・①だと、「そうだね、それもいいね」「こっちこそ、わがまま言ってごめん」となって、結果が出ないかなあ……。
- ・②はあり得ないでしょう。「もっとちょうどい」とエスカレートしてしまうかも。
- ・③は、本心では納得していないのだから「作り笑顔」になってしまふかも……。
- ・④も①と同じで、どっちつかずになってしまふかな。
- ・⑤は、最初の約束の意味がなくなってしまうし、自分の考えが生かされない。
- ・⑥は、意味もなく合わせるだけでは、ただの多数決みたい。
- ・う~ん、どうしたらいいのかなあ。

「わたし」と「清水さん」の違いは何でしょうか。

- ・「清水さん」は、決めしたことなんだからもう変えられないと思っている。
- ・「わたし」は、決めたことは守らなければいけないけれど、「黒羽さん」の考えにも一理あると思っている。



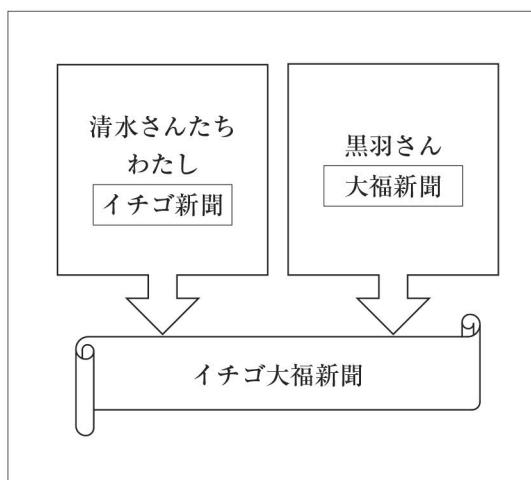
○「わたし」は、広い心で両方のよさを認めているのです。

・そうそう、「イチゴ大福」！

○え？ 「イチゴ大福」？

・わかった。④と⑥を合わせればいいんだ。

○なるほど、「わたし」や「清水さんたち」が作ろうと話し合ったのが“イチゴ新聞”で、「黒羽さん」が作りたいと言い出したのが“大福新聞”なんだね。



この発言を聞いたとき、私自身も思わず「なるほど！」と納得してしまった。このように子どもたちの具体的な言葉は、授業の思考を飛躍的に深めたり、広げたり、促進させたりする力をもつ。当然のことながら、そのような言葉は子どもたち同士に響きやすい。時には大人が頭で考えるどんな立派な言葉よりも説得力がある。

よりよいものを作るため(よりよい共同社会を構築するため)に大切なことは何だろう。今日の学習から考えてみよう。

- ・お互いの意見を主張し合って、言い争うではない。
- ・お互いの意見を分かり合って、自分の意見を譲ることでもない。
- ・お互いの意見を認めた上で、自分の考えも加えてよりよくしていく。
- ・④と⑥を合体させればいいんだ！
- なるほど、「イチゴ」のよさも「大福」のよさも入れながら、両方のよさが生きるようなものを作るということですね。

キーワードでまとめましょう。

・お互いのことを認め合う。

相手の気持ちを分かり合い、意見を認め合える心を「寛容」と言います。

○そのような、「寛容」な心で何かをすると、どんなよいことがあるでしょう。

・お互いのよいところを認め合い、伸ばし合いかがら、もっとよいものを作ることができる。

○今日のみなさんも、友達の意見を取り入れながら、ますますよい考えを導き出していましたね。

3. 考察



何といっても「イチゴ大福」という表現は圧巻だった。このような発言を引き出すことができた要因のひとつは、板書の工夫だと考えている。上の写真のように、板書には図解して比較させる要素を幾つも取り入れた。このような図解をすることによって、構造がひと目で分かり、子どもたちの理解を促進させていることは確かである。

4. まとめ

子どもたちの言葉を生かすというのは、子どもの発言をそのまま使うということではない。発言の意図を汲み、必要に応じて補足したり問い合わせたりするので、簡単そうに見えて実は難しい。予定していたとおりにはいかないので、不安に思われるかもしれないが、だからこそ面白いのである。少しばかりの勇気と、周到な価値分析があれば、その醍醐味を味わうことができる。ぜひチャレンジしていただきたい。

道徳の教科化に伴い、最近よく話題になるのが「問題解決的な学習」という言葉である。「問題」とは何か。今後、さまざまな議論・実践がなされていくことだろう。今回紹介した授業も、ある意味、問題解決的な授業として位置づけてもよいのではないかと思っている。